

監査結果

総合所見

(1) 全体所見

第3次環境基本計画に基づく環境施策の実施状況と、すべての所属における環境配慮行動の取組状況を対象として、書面による状況確認を行いました。市民、職員および他市職員からなる監査チームメンバーが事務局より送付された監査資料の内容を参照して個人としての評価コメントを作成し、その後、専門家が個々のコメントを総合して評価、所見の作成を行いました。

書面監査の結果、「環境基本計画目標達成状況監査」では多くの施策が概ね計画どおり順調に進捗していること、「取組状況監査」では職員が環境への意識を高めて日々の環境配慮行動に取り組んでいることを確認できました。

(2) 環境基本計画目標達成状況

令和3年度からスタートした第3次環境基本計画について、5つの基本目標ごとに成果指標の進捗状況、令和4年度の取組状況と令和5年度以降の実施予定を対象に点検しました。

成果指標14項目のうち、令和10(2028)年度計画目標に向けて順調に推移していることが確認できたものが8項目あり、このうち4項目で計画目標をすでに達成しました。

特に「基本目標2. 資源が循環するまち」については、昨年度に引き続き3つの成果指標すべてが改善、うち1つで計画目標を達成しており、すべての市民の生活に関わる部分での取組の強化と、市民の理解・行動の進展がうかがえる結果となりました。

成果指標の改善が見られなかったものは2項目ありました。人が集まる活動への制約が緩和してきたとは言え、この影響はいまだ大きく、同時に市民の生活や価値観にも変化が起きていることから、従来の手法で回復を狙うのは困難と考えられます。新しい生活様式や価値観に対応した柔軟な取組が展開されることを期待します。

(3) 環境配慮行動の取組状況

全職員を対象としたクイズ形式の「環境マネジメントシステム取組状況チェックシート」を実施し、その集計結果を監査チームにて確認し所見を作成しました。全回答者の平均正答率は80.9%と、昨年度を4.6ポイント上回りました。

昨年度に正答率が低かった項目のほとんどで、正答率は改善しました。しかし、特に伊丹市役所でのごみ分別方法については、日常の事務事業の中で扱う機会が少ないもの、質量が小さいものに関して引き続き正答率が低く、日頃から意識する機会のないものについていかに正しい知識を持ち行動を促すかがカギになることが明らかになりました。様々な手法で学習機会を増やすこと、知識を深めることについて、再度検討し工夫していただきたいと思います。また、「環境マネジメントシステム取組状況チェックシート」の設問を、知識を問うものから行動の状況を確認するものにシフトすることで、日頃の行動を振り返り、主体的に改善する契機としていただけよう、問いかけの工夫も検討していただけると良いと思います。

第一部 環境基本計画 進捗状況監査

[監査日程] 令和5年12月13日(水)～令和6年1月12日(金)

[監査場所] 書面監査

[監査対象] 令和4(2022)年度伊丹市環境基本計画(第3次)年次報告書、概要版、資料編

1. 環境基本計画 成果指標の進捗状況

今年度は環境基本計画(第3次)のすべての基本目標に係る施策を監査対象としました。成果指標14項目のうち、令和10(2028)年度計画目標に向けて順調に推移していることが確認できたものが8項目あり、このうち4項目で計画目標をすでに達成しました。

令和4年度成果指標の進捗状況

評価記号	評価基準	項目数
◎	令和10年度計画目標を達成している。	4
○	単年度目標は達成しているが、最終年度目標は達成していない。	4
△	取組んでいるが、指標値の進展(改善)が見られない。	2
—	評価できない(データ未入手)	4

基本目標	成果指標	令和元年度 現状値	令和4年度 実績	計画目標 (令和10年度)	令和4年度 達成状況
1. 気候変動に対応するまち	①本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量	24,619 t-CO ₂	24,666t-CO ₂	22,505 t-CO ₂	○
	②浸水対策達成率	83.83%	83.86%	84.26%	○
2. 資源が循環するまち	①発生抑制率	4.9%	9.2%	10.9%	○
	②資源化率	17.5%	17.6%	18.6%	○
	③最終処分量(埋立量)	7,020t	6,569t	6,719t	◎
3. 自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち	①みどりに対する市民満足度	—	—	80%	—
	②在来生物の種類数	188種	196種	193種	◎
	③自然緑化活動等に参加している団体数・参加人数	125団体 494人	124団体 391人	125団体 700人	△
4. 良好な都市空間の整備と生活環境が保全されるまち	①環境基準達成率(水質(BOD))	100%	100%	100%	◎
	②地域清掃活動支援件数	771件	726件	1,100件	△
	③景観に対する市民満足度	79.9%	—	80%	—
	④交通ネットワークに対する市民満足度	72.4%	—	73%	—
5. 環境意識と協働の輪が広がるまち	①環境イベント・講座等に参加した人数	4,969人	15,611人	5,250人	◎
	②緑化や自然保護活動に参加した市民の割合	—	—	10%	—

第二部 環境配慮行動の取組状況監査

[監査日程] 令和5年12月13日(水)～令和6年1月12日(金)

[監査場所] 書面監査

[監査対象] 環境マネジメントシステム取組状況チェックシート集計結果

1. 環境マネジメントシステム取組状況チェックシート 集計結果

(1) 全体集計結果の概要

回答者 1109 人のうち、271 人が全問正解でした。

基本的な環境配慮行動については、多くが高い正答率となりました。

昨年度、正答率が比較的低かった空調利用時の冬場（Q2）の室内温度設定については、76.5%の方が正解し、昨年度比で5.7ポイント向上しました。

伊丹市役所での分別方法については昨年度と同様の項目を設定しましたが、ほとんどの項目で正答率は昨年度より上昇しました。特にプラスチック製の容器（カップ麺の容器、飲料容器など）（Q5(3)）は9.6ポイント、水ですすいだプラスチック製の弁当がら（Q5(5)）は7.8ポイント、それぞれ昨年度から向上しており、庁内での認知度が高まってきていることがうかがえます。

表1 設問ごとの正答、正答率

設問	正答	正答率
Q1 夏場の空調は、室温〇℃を目安に設定する。	③28℃	91.3%
Q2 冬場の空調は、室温〇℃を目安に設定する。	③19℃	76.5%
Q3 公用車の利用を削減するための行動として、間違っているものは？	②すぐに現場対応できるよう、資材などはひと通り積んだままにしておく	93.8%
Q4 コピー機の使用方法について、環境に配慮したものは〇〇である。	①モニターでのチェックを行い、ミスプリントを減らす	95.4%
Q5 伊丹市役所での正しい分別方法は？		
(1)両面使用済みのコピー用紙	④資源物（溶解）	90.1%
(2)コーティングされた紙、シール台紙、コピー用紙の包み紙	③資源物（雑誌類）	66.4%
(3)プラスチック製の容器（カップ麺の容器、飲料容器など）	②産業廃棄物	83.0%
(4)付箋	④資源物（溶解）	61.4%
(5)水ですすいだプラスチック製の弁当がら	②産業廃棄物	82.1%
(6)金属製の文具類	②産業廃棄物	93.6%
(7)ペットボトルのラベル	②産業廃棄物	76.7%
Q6(1)世界平均気温の上昇を1.5度以内に	②2035年までにCO2を65%削減	75.1%

抑えるには、2050年までにカーボンニュートラルを達成する必要がある。これに向けた短期～中期に必要な温室効果ガスの削減について、正しいものは？	する（基準年は2019年）	
Q6(2) 気温の上昇は大気中の温室効果ガス濃度によって決まる。これまでの累積排出量から、「気温上昇を1.5℃に抑えるために許容される今後の排出量（＝カーボンバジェット）」を推定することができる。カーボンバジェットに関して誤っているものは？	③火力発電所などの既存の化石燃料インフラは、適正に使用すれば耐用年数まで稼働させて支障はない	66.1%

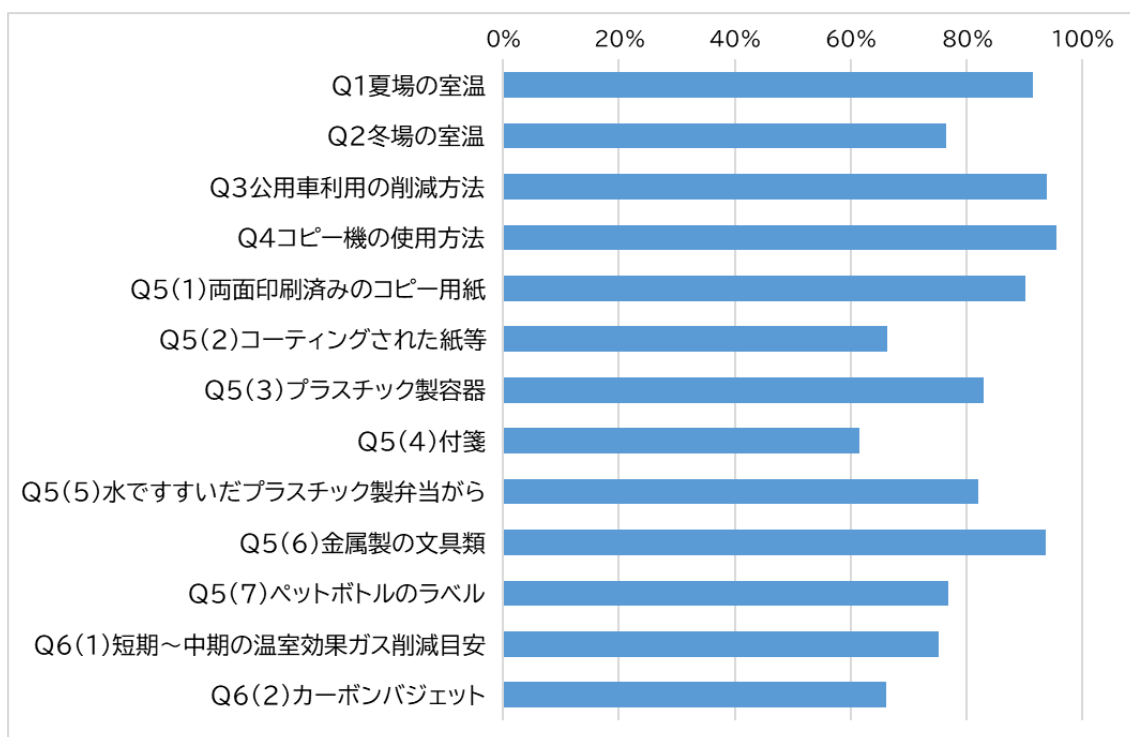


図1 設問別正答率